

第6章 大阪府環境総合計画の目標と進捗状況

平成8年3月に策定した大阪府環境総合計画の計画期間は、大阪府環境総合計画（NEW STEP 21）との継続性及び大阪府新総合計画との整合性を踏まえ、21世紀の第1四半期（2025年）を見通しつつ、平成13年度（2001年度）までとなっており、具体的な目標を、生活環境（第2章）・自然環境（第3章）・都市環境（第4章）・地球環境（第5章）ごとに掲げています。その具体的な目標及び進捗状況は、6-1表のとおりです。

1 生活環境

「窒素酸化物排出量の削減」については、大型ディーゼル車の走行量が想定以上に増加したことや車の大型化等のため、2000年度における目標達成が厳しい状況となっています。

廃棄物の減量化については、「一般廃棄物」と「産業廃棄物」は達成見込みですが、「下水汚泥」は、まだ市場性のある再生品を研究中であり、達成が厳しい状況です。

水環境については、「COD排出量の削減」や「窒素・燐の排出量の削減」は達成見込ですが、下水道の「普及率」及び「処理水再生利用率」、下水道整備に依存する「生活排水処理率」ともに、達成が厳しい状況です。

2 自然環境

「大阪版レッドデータブック・大阪産野生生物目録の作成」や「国定公園の拡大」については既に達成済みです。また、比較的大きなため池の整備が継続中である「ため池の親水空間の整備」については達成見込みとなっています。

3 都市環境

「重要伝統的建造物群保存地区の整備」や「狭山池博物館の開館」は達成済みで、「史跡公園の整備」は達成見込みですが、それ以外については、施策・事業が進行中であり、現時点での評価は困難です。

4 地球環境

「二酸化炭素排出量の抑制」については現時点での評価は困難ですが、「エネルギー消費量の低減」については1997年度の状況から達成できる見込です。

6 - 1 表 大阪府環境総合計画の目標と進捗状況

項目	環境総合計画に掲載した目標	進捗状況(現状)	評価
第2章第1節 自動車公害の防止			
窒素酸化物	2000年度には特定地域において自動車から排出される窒素酸化物を21,420トン以下に削減する。	27,670トン(1997年度)	達成は厳しい
(低公害車)	約6万台程度を目標として普及促進する。	4,900台(2000年度末)	
第2章第2節 廃棄物・リサイクル対策の推進			
ごみ (一般廃棄物)	2001年度には予測排出量(607万トン)から15%(90万トン)を削減する。排出量517万トン	排出量431万トン(1999年度)	達成見込み
産業廃棄物	2001年度には予測最終処分量(852万トン)から45%(380万トン)を削減する。最終処分量472万トン、減量化目標率86%	最終処分量342万トン(1995年度) 減量化率 83% [中間目標率 82%]	達成見込み
下水汚泥	2001年度には概ね50%をリサイクル(2025年には全量)する。	約43%(2000年度末)	達成は厳しい
第2章第3節 大気環境の保全			
窒素酸化物	2000年度末には、自動車も含めた窒素酸化物の排出総量を50,620トン/年(自動車NOx法特定地域)以下にする。	52,690トン/年(1994年度)	達成は厳しい
第2章第4節 水環境の保全			
COD	1999年度にはCOD排出量を1994年度より削減する。目標値:112トン/日	114.5トン/日(1996年度) 2001年度に1999年度排出量算定	達成見込み
窒素・燐	1999年度には窒素・燐排出量を1994年度より削減する。窒素123.5、燐7.8トン/日	- 2001年度に1999年度排出量算定	達成見込み 客観的データ不足
	環境への負荷の低減をめざし、可能な限り肥料の施肥量を削減する。	有機質肥料を主体としたモデル展示の設置等により肥料の適正使用を指導	進行中
下水道	2001年には下水道を概ね90%普及し、下水処理水再利用率を概ね30%とする。	普及率84.6%、再利用率約18% (供用区域内人口ベース) (2000年度末)	達成は厳しい
生活排水	2001年に向けて生活排水の100%適正処理をめざす。	汚水衛生処理率 79.9% (実処理人口ベース) (1999年10月1日現在)	達成は厳しい
第2章第7節 有害化学物質対策の推進			
化学物質	安全管理により排出を抑制し、環境汚染を生じさせない。	-	-

項目	環境総合計画に掲載した目標	進捗状況（現状）	評価
第3章第1節 生態系の多様性の確保			
府域の野生動物植物	地域特性に応じて種の多様性を確保する。	能勢町地黄及び和泉市信太山において、湿地保全事業を実施（1997年～1999年）	進行中
	大阪版レッドデータブック（仮称）、大阪産野生生物目録（仮称）を作成する。	「大阪府レッドデータブック」及び「大阪府野生生物目録」を出版（1999年度）	達成済
ピオトープ	ピオトープの考え方、技術的手法を普及・浸透させる。	・大阪府緑化推進本部自然環境専門部会等と連携し、野生動物植物の生息等への配慮技術について調査検討。 ・河川工事等における指導及び助言等。	進行中
	ピオトープを良好に保全・創出する。	能勢町地黄及び和泉市信太山において、湿地保全事業を実施（1997年～1999年）	進行中
第3章第2節 多様な自然環境の保全・回復、活用			
貴重な自然	和泉・城山のブナ林や自然海岸など府域に残された貴重な自然を保全する。	・ブナ林周辺にブナの種をまき、育苗中。 ・自然海浜保全地区（岬町）における環境整備、開発行為の監視	進行中
ため池	21世紀初頭までに各市町村1～2箇所、約200haの親水空間の整備をめざす。	15地区37.5haの整備を完了（2000年3月）	達成見込み
第3章第3節 自然とふれあう場と機会づくり			
国定公園	和泉・城山系への国定公園の拡大を実現する。	1996年10月2日和泉・城山系を含む金剛生駒山系に国定公園区域が拡大。16,498ha	達成済
自然歩道	2000年度末までに泉南ブロックを整備する。	現在整備中	未達成
河川整備	2025年までに沿川地域に応じた自然とふれあえる水辺の整備を府管理河川の5割程度で行う。	現在整備中	進行中
第3章第4節 自然環境の保全・創造のための活動の推進			
各主体の自主的活動	自然環境に関する情報を質・量ともにさらに充実させる。	ホームページの開設や広報物の活用により、自然環境の情報を発信	進行中
	地域で行われる自主的活動のリーダーとして活躍できる指導者を育成・確保する。	みどりすと、パークレンジャーなどの自主的活動のリーダーを育成した。	進行中

項 目	環境総合計画に掲載した目標	進捗状況（現状）	評 価
第 4 章第 1 節 潤いと安らぎのある都市空間の形成			
緑被率	長期的な目標として、府内市街化区域での緑被率15%をめざす。	2002年度に算定予定 9.2%（1992年度）	-
街路樹	長期的な目標として、府管理道路の緑化延長を780kmに倍増する。	437km（2001年4月1日）	進行中
親水空間	2025年までに、川に沿って水面を眺めながら散歩ができるなど、水辺に親しめる川を府管理河川の7割とする。 2025年までに、まちの顔となる水辺づくりを府内全市町村で実施する。	整備中	進行中
サイクリングロード	21世紀初頭には、北河内自転車道（延長45.5km）を開設する。	約18km（2000年度末）	進行中
第 4 章第 2 節 美しい景観の形成			
地域の特性を生かした美しい景観の形成	地区計画制度等を活用し、地区の特性に応じた良好な市街地の形成を図る。	22市8町1村121地区で地区計画、再開発地区計画を決定（2001年3月末現在）	進行中
	イベントや、顕彰制度、団体交流の場を活用し、景観づくりへの関心や活動の一層の充実を図る。	大阪まちなみ賞にあわせた記念講演の開催、みどりの景観賞の表彰、大阪府都市緑化フェアへの出展、まちづくり功労者の表彰及びパネル展・記念講演会・まちづくり見学会を開催	進行中
第 4 章第 3 節 歴史的文化的環境の形成			
重要伝統的建造物群保存地区	21世紀初頭までに、富田林市寺内町の町並みが府内で初めての重要伝統的建造物群保存地区として国に選定されるよう整備を促進する。	・府都市計画地方審議会で寺内町が伝統的建造物群保存地区に決定（1997年2月）。 ・富田林市は国の重要伝統的建造物群選定申請書を提出（1997年5月）。 ・197年10月391日（文部省告示第182号）により、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。	達成済み
史跡公園	21世紀初頭までに、史跡公園（第1期）として史跡池上曾根遺跡の整備を促進する。	国庫補助事業地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）を実施中	達成見込み
博物館等	2000年に、狭山池ダム資料館（仮称）を開館する。	狭山池博物館を2001年3月28日開館	遅れて達成

項 目	環境総合計画に掲載した目標	進捗状況（現状）	評 価																
第5章第1節 地球環境保全に資する取組の推進																			
二酸化炭素 排出量	<p>国の「地球温暖化防止行動計画」における排出抑制目標に向けて排出抑制を図る。</p> <p>目標：2010年度の排出量を1990年度（排出量14,062炭素換算k t）から5%削減</p> <p>*目標は、平成12年3月に改定した地球温暖化対策地域推進計画の目標値</p>	<p>二酸化炭素排出量（1997年度） （炭素換算k t）</p> <table border="1"> <tr> <td>エネルギー転換部門</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>産 業 部 門</td> <td>6,483</td> </tr> <tr> <td>運 輸 部 門</td> <td>2,351</td> </tr> <tr> <td>民生部門</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 家庭系</td> <td>2,852</td> </tr> <tr> <td> 業務系</td> <td>2,446</td> </tr> <tr> <td>廃 棄 物</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>14,680</td> </tr> </table> <p>1人当たり排出量：1.66炭素換算t /人</p>	エネルギー転換部門	149	産 業 部 門	6,483	運 輸 部 門	2,351	民生部門		家庭系	2,852	業務系	2,446	廃 棄 物	400	合 計	14,680	進行中
エネルギー転換部門	149																		
産 業 部 門	6,483																		
運 輸 部 門	2,351																		
民生部門																			
家庭系	2,852																		
業務系	2,446																		
廃 棄 物	400																		
合 計	14,680																		
熱帯産木材 の使用抑制	大阪府発注の建築工事におけるコンクリート型枠について、できるだけ早急に熱帯産木材の使用を75%以上の割合で抑制する。	原則として、全ての建築工事に拡大	進行中																
第5章第2節 環境に優しい地域づくり																			
エネルギー 消費量	2000年度における1世帯当たりのエネルギー消費量() 商業・業務施設の床面積当たりのエネルギー消費量() 製造業等におけるエネルギー消費量() を当該年度の見込みからそれぞれ10%、5%、5%低減させることを目指す。	<p>1997年度</p> <p>9,729(Mc a l / 世帯)</p> <p>264(M c a l / m²)</p> <p>71,138(10⁹k c a l)</p> <p>(目標値)</p> <p>9,778(Mc a l / 世帯)</p> <p>268(M c a l / m²)</p> <p>78,782(10⁹k c a l)</p>	達成見込み																
太陽光発電 システム	府の新規の施設への導入を図る。	<p>村野浄水場太陽光発電設備(360kW)</p> <p>阪南スカイタウン発電施設(2kW)</p> <p>府営河内長野木戸住宅(4kW)</p> <p>大阪府立八尾高校(510W)</p> <p>府民牧場・ソーラー噴水(360kW)</p> <p>吹田養護学校(3.36kW)</p> <p>ビッグバン(3kW)</p>	進行中																